

令和6年10月31日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

福島町議会議員 溝 部 幸 基

研修成果報告書

福島町議会議員研修条例第7条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 視察日時 令和6年10月16日(水)～18日(金)
- 2 視 察 先 ①秋田県山本郡藤里町(藤里町社会福祉協議会)
②秋田県雄勝郡東成瀬村(東成瀬地域づくり事業協同組合)
- 3 研修目的 令和6年度渡島西部四町議会議員連絡協議会研修視察
- 4 成 果 別紙のとおり

【視察内容】

- (1) 藤里町社会福祉協議会
「社会福祉協議会の取組みについて」
10月16日(水)午後2時から4時
- (2) 東成瀬地域づくり事業協同組合
「地域づくり事業協同組合について」
10月17日(木)午前10時から12時

(1) 社会福祉協議会の取組みについて

社団法人藤里町社会福祉協議会 会長 菊池 まゆみ
事務局長 門田 真

「藤里方式による活躍支援事業」として「一人の不幸も見逃さない運動(ネットワーク活動推進事業)」「支援する人、される人を隔てない(トータルケア推進事業)」等を展開し続ける藤里町社会福祉協議会、そして活動の中心となり牽引し続ける菊池会長さんのことは早い段階から周知し、令和4年に北海道自治研修所自治講座で実践報告を聞かせていただき、いつの日か、直接、藤里を訪れる機会を作りたいと考えておりました。

今回、西部4町議員協議会として視察することが叶いました。

人口2800人、高齢者1409人(高齢化率50.32%)と過疎高齢化が急激に進行する中で、職員体制54名、そのうち、資格取得の状況が、社会福祉士13人・精神福祉士10人・正准看護師6人・介護支援専門員15人・介護福祉士35人・保育士2人となっており、町出身者を協議会として育成し続けて来たとのことに感服しました。活躍支援事業の背景として、藤里町は「人口減少社会のトップランナー」と自覚し、今まで取組んできた福祉による活躍支援という発想での活路の展開だけでは十分でなく、ダイバーシティ(多様性を活かした取組み)の発想が不可欠とし、「福祉で町づくり」を合言葉に、世代を超えたサービスの展開等を考慮するとしております。

常任委員会の所管調査を続け、自助努力を求めている福島町社協の現況では、ギャップが大きく、参考とすることも難しいですが、引き続き関心を持って対応しなければとの思いを強くいたしました。

(2) 地域づくり事業協同組合について

東成瀬村地域づくり事業協同組合 代表理事 尾形 新一
東成瀬村 議会議長 佐々木 修
東成瀬村産業振興課長 高橋 憲一

平成21年市町村設置型浄化槽整備事業について、秋田県の二ツ井村と東成瀬村を視察、筑波にある間建設試験場でコンクリート劣化の状況を確認し、福島町が基本計画まで進めた公共下水道から浄化槽整備へ転換する決断をすることとなった。その際、建設課主幹として熱心に対応していただいた高橋さんが産業課振興課長として、地域づくり事業協同組合設立・運営に関し、行政側サポートの中心的役割をされておりました。人口減少が急激に進行する過疎地域の維持と経済活性化を図るため、人手不足に悩む小規模事業者が事業協同組合を設立した経緯と現況について、懇切丁寧に説明をいただきました。

村内事業者13社(現在10社)で設立(全国2番目:東日本初)、農業・温泉旅禍、製造業、スキー場(インストラクター)など季節的な労働需要を組み合わせ、通年雇用を創出している状況は、理想的な地域づくり事業協同組合の模範となるものと推察されました。

過疎化が進行する厳しい状況下で、アンテナを伸ばし、懸命に自助努力をする姿が明確に見え、熱心に説明された代表理事の尾形さんとサポートする行政との連携の良さが強く感じられ、大いに参考になる視察でした。

ちなみに、東成瀬村は、星空日本一の村であることも紹介されておりました。